

# ドライバーの運転マナーひとつで 運送業界のイメージは左右されます

10月9日は、『トラックの日』です。公益社団法人 全日本トラック協会などは、この日を中心に全国でイベントを開催し、運送業界の役割や重要性をPRしています。しかしながら、世間からはトラックに対して「怖い」「マナーが悪い」といった声があるのも事実。業界のイメージアップのためには、まずはドライバーの一人ひとりの運転マナーが大切になってきます。

そこで今月号では、業界に対する世間からのイメージを紹介するとともに、プロドライバーとして必要な運転マナーについてみていきます。



## 『トラックの日』を通じて業界のイメージを向上

トラックや運送業界に対して、世間ではどのようなイメージを持っているのでしょうか？ 車両の大きさに加え、トラックでの事故は被害が甚大になりやすいため、やはり「怖い」というイメージがあるようです。また一般市民から全日本トラック協会に寄せられた苦情には、“急な車線変更や割り込みをされた”、“必要以上のパッシングを受けた”、“後ろからあおられた”、“ゴミをポイ捨てしていた”、“一晩中エンジンをかけっぱなし”などがあり、一部のドライバーによる運転マナーの悪さが業界のマイナスイメージにつながっています。

全日本トラック協会および都道府県トラック協会では、業界が国の基幹産業のひとつとして社会と共生

しながら健全に発展していくためには、人々の理解と関心を深めてもらうことが必要であるという観点から、10月9日を『トラックの日』と制定。さまざまな広報活動やイベントなどを通じ、トラック輸送の役割、重要性をPRしています。

そして、業界のイメージ向上のために大切なのは、まずはドライバーの一人ひとりが“きちんとした運転マナーを身につける”ことです。それは運転に限らず、社内外でのあいさつ、身だしなみ、お客様に対する言葉づかい、4Sといった車両の整理整頓をしっかりと行うことなども、運転マナーにつながっていくのです。

## 4Sを大切に

4Sとは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」のそれぞれの頭文字「S」とったものです。4Sの実践は視界確保やわき見運転の防止など、安全運転のために極めて重要なことであり、運転マナー向上のためにも欠かせません。

### 整理

助手席側ドアの安全窓付近に伝票やヘルメット、段ボール箱などを置いていませんか？ それらによって視界が遮られると、歩行者を見落とし巻き込み事故などを起こす恐れがあり危険です。安全な視界を確保するため、安全窓付近に置いてある物は整理しましょう。

### 整頓

書類などをダッシュボードに置くと、フロントガラスに反射して視界を悪化させます。また、そこから落ちそうになった書類に気をとられ、わき見運転になる恐れも。運転の邪魔にならないよう、整頓を心がけましょう。

### 清掃

空き缶が床に落ちていた場合、万一それがブレーキペダルに挟まってしまうと、ペダルが踏めない恐れがあり危険です。また、出発時に散らかっている車内を片づけるのは時間をロスします。つねに清掃する習慣をつけておきましょう。

### 清潔

「清潔」は「整理、整頓、清掃」を維持することです。清潔なトラックを運転すれば、愛車精神が高まるとともに、“プロドライバー”としての自覚も強くなります。それが結果として、マナーの良い安全運転につながっていくのです。

## トラックは“走る広告塔”

トラックには、会社や荷主企業の名前、ロゴマーク、商品名などが大きく書かれています。つまりトラックは“会社、お客様、運送業界のイメージ”を背負って走っているといえ、まさに“走る広告塔”なのです。

実際に多くの人がこうしたトラックを目にとめることで、高い宣伝効果があります。それは同時に、他車や歩行者への気づかい、安心感を与える責任を負っていることでもあります。“さすがプロ”といわれる運転マナーを身につけ実践することで、他車のドライバーの手本になれるよう努めましょう。

## 基本は「思いやり」と「譲り合い」

大勢の人が行き交う公共の場では、交通ルールだけでは解決できないケースが多々あります。これを円滑に解決するのが、運転マナーの基本である「思いやり」と「譲り合い」です。ドライバーの皆さんは“道路を使わせてもらっている”という気持ちでハンドルを握ることが大切です。またトラックは他車よりも大きいため、強者意識がつのりやすい傾向にあります。“おごり”を持たず相手の立場に立った運転を心がけましょう。

一人ひとりの運転マナーが、業界のイメージを左右します。改めて自身の運転を確認してください。